

未病のサイン 声で読み取り

「心の健康計測システム」を実証実験

神奈川県は現在、「未病を治す」ための関連商品・サービスを「MEIBYO O BRAND」として認定し、産業化する事業を展開している。その中で「さがみロボット産業特区」で開発されたスマートフォン（スマホ）を使った「心の健康計測システム」MIMOSYS

神奈川県

SYS（マインド・モニタリング・システム）がこのほど、第1号に認定された。公明党神奈川県議団（小野寺慎一郎団長）は6月29日、県庁内で県の担当者らから、同システムの仕組みと今後の展開について説明を受け、意見交換を行った。

会話をアプリが解析

未病は発病には至らないものの、軽い症状がある状態。「未病を治す」とは、特定の疾患の予防・治療にとどまらず、普段の生活において心身の状態を整え、より健康な状態に近づけること。MIMOSYSは声から、情動、ストレス、抑うつ状態などを分析し、「心の状態」をリアルタイムで認識できるもので、未病のサインを読み取り、心の健康管理につながるのが狙い。

具体的には、アンドロイドOS搭載のスマホで、本人の音声を録音。専用アプリを起動すると、その中から、七つ以上の発話（息継ぎなどで区切れる発話の単位）を解析し、声質を喜怒哀楽、

平静・興奮などの状態に分類し、本当の感情を抽出する。そして、現在の心の状態を「元気圧」として表示する。

例えば「いつもより少しだけ低い元気圧。もう少しアクティブに会話した」（HIGH）のように

リアルタイムでスマホに表示

元気圧（現在の心の状態）



心の活量値（長期的な心の状態）



に表示される。「こんにちは」「そうですね」という発話も、自分では元気に発したつもりでも、アプリが正確に分析し、そのときどきによって声質を「色分け」するのが特徴。

この解析データ（2週間分）を測定し、長期的な心の状態を「心の活量値」として数値化することもできる。この場合、「活量値は良いペースですね。長時間の集中が続くときは適度に休憩をとってリズムを整えましょう」などのメッセージが表示される。

「さがみロボット産業特区」の推進事業については、県議会公明党がさまざまな事業を提案するなど、県の取り組みと併せて施策の拡充を推進してきた。



システムについて説明を受ける党神奈川県議団